

「VとWを実行しましょう」

生徒の皆さん、新年明けましておめでとうございます。校長の博田です。短かった冬休みが終わり、今日から第3学期が始まります。終業式の日に私がお話しした「箱根駅伝」、皆さんはテレビで見る機会がありましたか？ 皆さんの中には気づいた人もいるかもしれませんが、逆転優勝を果たした駒澤大学のキャプテン、神戸（かんべ）駿介君は松が谷高校の卒業生です。優勝後のインタビューで神戸君が冷静に今回の箱根駅伝を振り返っている姿が印象的でした。今日は、こうした夢の達成に向けてのヒントについてお話しします。

皆さんは、日頃の学習や生活、部活動などに取り組んでいる時に、どんなことに気を付けて頑張っていますか？ うまくいったとき、成功した時、成果を上げた時はどういうことに気をつけていましたか？ 皆さんには将来の夢や目標があると思います。それを実現するために大切な言葉があるので紹介します。それは、英語のアルファベットのVとWのことです。これはiPS細胞の研究で2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所所長の山中伸弥教授が紹介している言葉です。このiPS細胞の作製技術は山中教授をはじめとして多くの人の努力によって生み出されたことが知られています。

VとWは、山中教授が1993年にアメリカのサンフランシスコのグラッドストーン研究所で、当時の研究所の所長、ロバート・メーリー先生から教わった言葉だそうです。ある時、メーリー先生は研究所に在籍する人を集め、こう話されたそうです。「VとWが大切だ。研究者として成功する秘訣はVWだ。VWさえ実行すれば、君たちは必ず成功する。研究者にとってだけでなく、人生にとっても大切なのはVWだ。VWは魔法の言葉だ」と。

Vは「Vision」、Wは「Work hard」です。VWの意味は、「目的をはっきりと持ち、それに向かって懸命に働く」ということです。日本人は、一般的に「Work hard」は得意で、夜遅くまで働く人、休日も働く人が大勢います。しかしいつの間にか目的を見失い、何のために働いているのか分からない状態に陥ってしまう傾向があります。山中教授自身にもそういう自覚があったので、メーリー先生のVとWの教えが心に響いたそうです。そして、日本人にとって不得意な「Vision」を育てたい、それには教育が大切であると強調されています。

コロナ禍の今、世界のグローバル化には大きなストップがかかっています。しかし皆さんが成長し、社会に出て活躍する頃には、ますますグローバル化や情報化が進んでいることでしょう。どのような分野に進むにしても、常に世界を意識して仕事をする時代に皆さんは活躍するのです。ですから、皆さんには自分の夢や目標を叶えるためにも、そしてこれからのグローバル社会の中、世界で活躍する人となるためにも、是非とも「Vision」と「Work hard」の意味するところを考え、実行してほしいと思います。「Vision」といっても、まずは手の届きそうな目標、小さな目標から始めましょう。そのためにはまず「自分で考えること」と「自分でアイデアを出すこと」を心掛けてほしいと考えています。できない理由を考えるのではなく、どうしたらできるようになるのか、指示待ちではなく、常に自分で考える習慣を身に付けてほしいのです。そして、その上で自分のやるべきことや目標を文字に書いて記録しておくことをお勧めします。目標を持つと、気持ちがくじけることもないはずですよ。

最後になりましたが、3年生の皆さんの多くは、あと10日あまりでセンター試験に代わって初めての実施となる「大学入学共通テスト」に臨みます。また2年生と1年生はそれぞれ文化的行事に向けて、クラスや学年で一致団結して取り組みます。まずはこうした目の前にある目標に向けて、今日お話ししたVとW、「Vision」と「Work hard」の気持ちを忘れずに取り組んでみてください。きっと達成感を味わうことができるはずです。冒頭で紹介した本校卒業生の神戸君も箱根駅伝優勝という「Vision」を持って「Work hard」したはずです。

それでは今年度の締めくくりとなる第3学期が皆さんにとって実りあるものとなるよう期待して、私の話を終わります。